

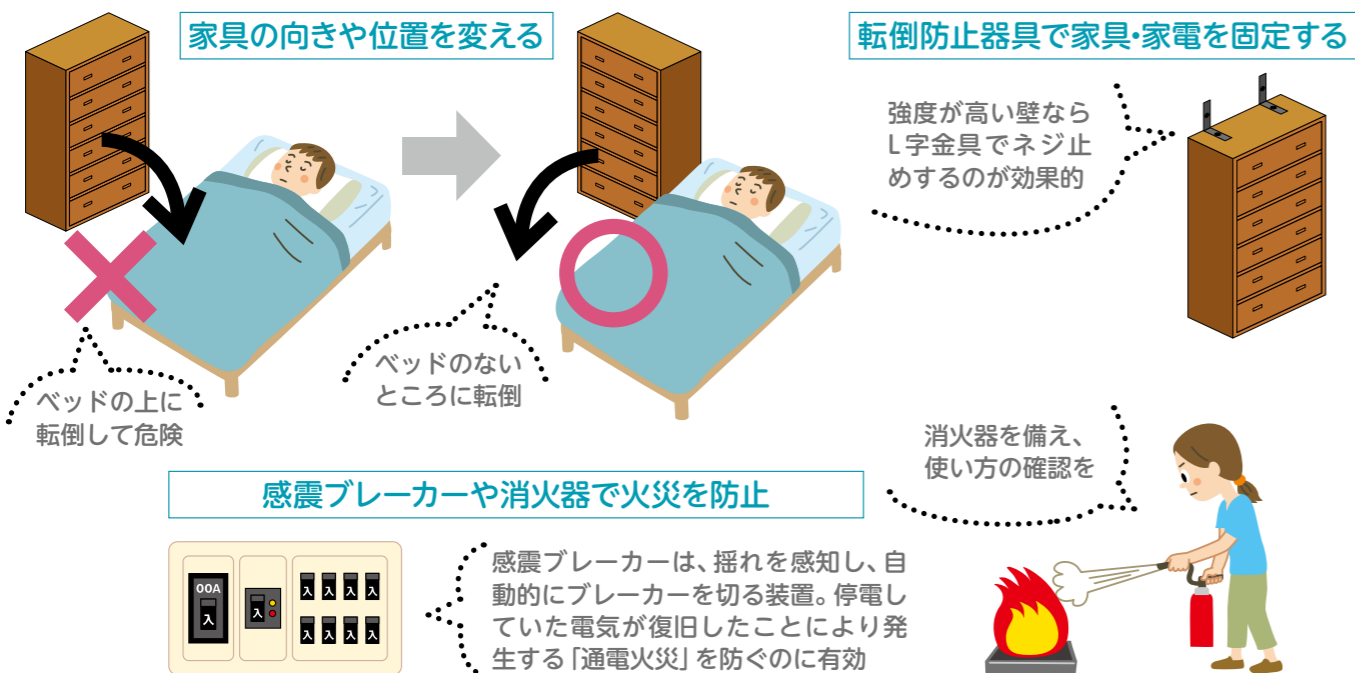
命と財産を守るために 目頃から備えを

私たちが生活する東京では、マグニチュード7クラスの「首都直下地震」が今後30年以内に70%の確率で発生すると予測されています。9月1日の「防災の日」を前に、災害への備えを改めて確認しましょう。

地域防災係／8階
☎(3228)8930 FAX(3228)5658

災害発生時に身を守る備え

地震によるけがの原因の3割～5割は、家具類の転倒・落下・移動です。家具等は万一倒れても下敷きにならないように配置し、転倒防止器具で家具・家電を固定して、安全性を高めましょう。また、火災を防ぐため、感震ブレーカーや消火器を設置しましょう。



防災用品や消火器、感震ブレーカーを区であっせんしています



区内在住・在勤の方があっせんを利用できます。商品は、自宅や勤務先(中野区に限る)に配送します。

種類や価格などは案内チラシをご覧ください

区HP、区民活動センター、区役所8階14番窓口で配布しています。☆区役所や消防署の職員が訪問販売を行うことはありません

助成を利用して建物の耐震性を確認しましょう

いずれも、昭和56年5月31日以前に建築された、区内の建築物が対象です。事前に耐震化促進係へ相談を。詳しくは、区HPをご覧ください。同係へ問い合わせを。

耐震化促進係／9階
☎(3228)5576
FAX(3228)5471

非木造住宅の耐震診断費用

鉄筋コンクリート造や鉄骨造などの非木造住宅(マンション含む)が対象。耐震診断にかかる費用の助成(765万円まで)を受けられます。

対象建築物の建築年度や構造、延べ面積などを設計図書で確認の上、相談を。

指定の大通り沿いの建築物の耐震化費用

地震時の避難や消火活動など緊急輸送を円滑に行うため、「中野区耐震改修促進計画」では「地震発生時に閉塞を防ぐべき道路」を定めています。

これにより、中野通り、大久保通りなどに接し、地震時に倒壊すると道路を半分以上塞いでしまう建築物については、耐震診断、補強設計、耐震補強、建て替えまたは除却にかかる費用の一部の助成を受けられます。

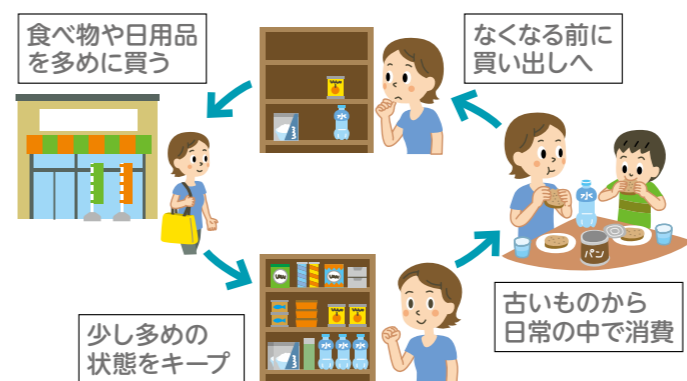
災害後を生き抜くための備え

らくらく「日常備蓄」を

日頃利用している食料品や生活必需品を少し多めに備え、古いものから消費して補充するだけで簡単に備蓄ができます。避難生活で役立つ、水や加熱不要の食料品、常備薬など、最低限備えておきたいものについては、「中野区民防災ハンドブック」などをご覧ください。



▲「中野区民防災ハンドブック」は区HPでご覧になれます



防災・災害情報の確認は

ホームページ



▲区HP

ツイッター

東京都中野区(広報係)
@tokyo_nakano
東京都防災
@tokyo_bousai

防災無線スピーカー

放送内容は☎(3228)5726で確認できます

アプリYahoo!防災速報「自治体からのお知らせ」

自宅の倒壊や火災、家具の転倒などの被害を免れても、電気やガス、水道などのライフラインや物資の供給が止まることも。支援が届くまで、少なくとも1週間は生活できるよう、食料や飲料、日用品の備えをしましょう。

特に必要なものの確認を

家庭によって必要なものは異なります。衛生用品などは多めに準備しましょう。



例 乳幼児・高齢者 ▶ おむつ、常備薬、離乳食・介護食
女性 ▶ 生理用品 など

「非常用持ち出し袋」には必要最低限の物を

自宅で生活できない場合に備えて中身を用意。玄関の近くや寝室、車の中など、家が倒壊しても持ち出せる場所に配置しましょう。☆感染予防のためマスクや体温計も準備を



防災地図などで危険度を確認

「中野区防災地図(中野の防災)」では地震に関する地域危険度などを、「中野区洪水ハザードマップ」(8月下旬改定予定)では浸水予想区域などを確認できます。☆区役所8階14番窓口で配布。区HPでもご覧になれます

動画で学びましょう▶

避難所での防災資機材の使い方をYouTubeで紹介しています。いざという時のため、ぜひご覧ください。



▲中野区公式YouTubeチャンネル

8月30日～9月5日は建築物防災週間

建築安全・安心係／9階
☎(3228)8837
FAX(3228)5471

建築物は、維持管理を適切に行わないと安全性が低下し、大きな事故を引き起こす危険性があります。この週間に機に、建築物を点検し、必要な防災対策を行いましょう。

避難所での新型コロナウイルス感染症対策にご協力をお願いします

自宅が安全な方は可能な限り在宅避難を

倒壊や浸水などの恐れがなく、自宅を安全に確保できる場合、可能な限り自宅にとどまってください。

☆浸水等の恐れのある方は、安全な場所へ早めに避難してください

避難の際はマスクや体温計を持参

余裕を持って避難できる状況の場合は、自宅を用意している災害用備蓄品の他、マスクや体温計などを持参してください。

「かからない」「うつさない」ために

避難所ではマスクを着用し、せきエチケットを徹底しましょう。また、検温や手指の消毒にも協力を。